

議員氏名：渡辺 訓任

議案番号：請願第1号

案 件 名：神奈川県フリースクール等利用児童・生徒支援事業費補助金を活用した支援制度の創設
に関する請願について

討論内容：

私は、請願第1号について採択の立場で討論いたします。

請願は具体的には、フリースクール等利用料の補助制度の創設と実施、選択に子どもの意見を尊重することの2点を求めています。子どもの休息と回復を支えていくためには、保護者への支援が必要です。子どもの見守りや相談などの負担も大変です。請願者からの説明にありましたように、費用の問題でフリースクールなどの選択肢も諦めることはもとより、不登校離職などで収入が減る一方、食事や外食、学びなどの支出が増え、経済的な困難に直面することは深刻だと受け止めています。経済的な支援は優先度の高い施策であり、県の施策にはかかわりなく、1つ目のフリースクールと利用料の補助は至急なされるべきだと考えます。子どもの不登校に戸惑い、育て方に問題があるのではないかという自己責任論に傷つくこともあり、場合によっては、母親だけが対応に疲れてしまうジェンダー差別とも言える状況がある中、経済面だけではなく、保護者に対しては多様な支援が求められると考えています。

二宮町の不登校児童生徒が2018年は27人だったものが、23年には104人と、4倍になっています。要因について、委員会審査では、子どもたちの学びのニーズが多様化していると考えただけで、深まりませんでした。私はそのことだけではないと考えています。コロナ禍以降の変化に目が行きがちですが、不登校児童生徒は、全国的にはコロナ禍前の10年前ぐらいから急増しています。その背景には、学習の詰め込み、先生たちの多忙などが子どもたちのストレスを高めたこと、ここにあるのではないかと指摘もあります。

2014年の不登校の子どもたちの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査では、子どもの学校に行きづらいと思い始めたきっかけの上位3つは、「先生との関係」、「勉強は分かるけど、授業が合わない」、「学校のシステムの問題」と、いずれも学校関係で、少なくない子どもが学校が嫌いと言っています。そして、36.9%の子ども、保護者の69.8%が、学校が変わってほしいと要望をしています。

6月議会では、中地区教職員組合提出の「子どもたちに豊かな学びを保障するために、教職員定数改善と教育予算の増額、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める陳情」と、国に対する意見書を賛成全員で採択しています。ここでは、教職員の増員と少人数学級の推進が求められています。

私は、不登校への対策を講じるとともに、少人数学級の推進や、詰め込みカリキュラムの見直しなど、抜本的に不登校を生み出している教育の在り方を変えること、これはやはり町で進めていくということが求められているのではないかと、このことを訴えて討論いたします。